

## 第 2 回本別町総合計画推進委員会会議

期 日            令和 2 年 5 月 7 日（木）  
会 場            役場 2 階会議室

✓	✓		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
大和田副町長	佐々木教育長	一条院長	村本課長	篠原課長	大橋課長	飯山課長	久司課長	小坂主幹	坪課長	宮崎主幹	花房室長	倉崎局長	三品局長	前佛所長	藤野事務長	阿部次長	高橋課長	上原署長	高橋課長

### 1. 開 会

### 2. 挨拶 本別町総合計画推進委員会 委員長 大和田副町長

大変お疲れ様です。昨年 6 月に第 1 回の会議を開催して以来の会議です。総合計画は本別町のまちづくりの基本となります計画です。本年は様々な計画の見直しが必要な年となっていますので、総合計画がその中心となって、枝分かれをしていく訳でありますので、連携を密にしながら、今後 10 年間の本別町のめざす姿を皆さんで創り上げていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

### 3. 本別町総合計画推進委員会について（名簿、設置規程）

大和田委員長：事務局より説明願います。

事務局：5 ページ体制について説明。設置規定 6、7 ページ説明。

### 4. これまでの経過報告と計画策定について

大和田委員長：事務局より経過報告の説明を願います。

事務局長：これまでの経過概略について報告。これまで 4 回の審議会、部会の開催、町民アンケートを実施。これまでのご意見等では第 6 次の総合計画総括については、みなさん一定の評価をいただいている。批判的であったり、方向性について異を唱えるものではなく、計画に沿った施策が実施されているとの評価。総括シートの作成では各課から提出いただいたものを取りまとめ評価して公表していますが、謙虚な評価とも言っている。従って、今後の 7 次計画策定、まちづくりにおいてもこれまでの方向性を継承していくことを基本としていく。新計画の策定にあたっては、新しい課題もあるので、新たに盛り込むもの、あるいは時代的背景から取り除いていくものを区別することがひとつのこと。また、コンセプト、緩急といいますか、すぐに実行すべきもの、10 年間かけて実施するものを際立たせ、わかりやすくし、町民の皆さんに訴えていく必要がある。

編集方針として、これまでの基本構想、基本計画、実施計画の 3 部建てを継承する。最近の傾向として計画をシンプルにつくるケースが増えている。帯広市であったり、鹿追町であったり。背景を聞くと「10 年先を見据えた明確な実施計画は立てづらい」との

こと。将来像としては理想像を描くものであることから、町民だれもが幸せな暮らしで、文化的な生活を営むなど、ごくあたりまえのことを時代背景に合わせた言い方で表現してきている。10年間の基本計画では「めまぐるしく変わる情勢のなかで、明確に定めていくことが難しい」と情報交換をしているところ。帯広市では前回計画書と比べてかなりコンパクトにページ数では半分ほどになっている。これは職員も町民の方もそうですが、シンプルで分かりやすいものにして、身近に感じて、まちとして常に訴えかけるようなものにしていく必要がある。中学生や高校生にあっても本別町がめざす姿を理解いただき、一緒に取り組んでいけるようなものにしていきたい。住民と行政にとって共通のバイブルとしての役割を発揮するもの。発行後の活用頻度が下がることなく、町民のみなさんにうたえていく役割、存在価値が高くなるような計画書をめざしていきたい。そのことで郷土愛の醸成にもなるし、共感を得られると考える。2月から新型コロナウイルス感染症の関係もあり、思うように会議が開催できていない状況。この推進委員会で先行して計画書の構想内容を固めていきながらお示しできるようにしていかなければ、時間的に厳しくなっている。そういった部分を本日、補っていただきたい。

#### 事務局：下記を経過報告

令和元年6月25日	第1回本別町総合計画推進委員会
令和元年7月10日	第1回本別町総合計画策定審議会
令和元年8月19日～8月30日	総合計画策定アンケート（町民、高校、中学校）
令和元年10月2日	第1回地域づくりセミナー
令和元年11月6日	第2回地域づくりセミナー
令和元年11月14日	第2回本別町総合計画策定審議会
令和元年12月4日	第3回地域づくりセミナー
令和2年1月23日	第3回本別町総合計画策定審議会
令和2年2月18日	総合計画策定審議会 産業建設部会会議
令和2年2月19日	総合計画策定審議会 文教厚生部会会議
令和2年2月25日	総合計画策定審議会 総務部会会議
令和2年3月13日	第4回本別町総合計画策定審議会（紙面会議）

#### 策定審議会が出された意見等

- ・人口減少はやむを得ない。交流人口、関係人口を増やしていく。
- ・総花でない、みんなが目標に向かってひとつになっていけるような計画。
- ・町民の皆さんが手に取って見ていただけるよう、わかりやすく簡素に。
- ・主な内容を掲載してシンプルに、詳細は個別計画に委ねる。
- ・数値目標を設定する＝イメージできるゴールを。
- ・指標の設定はアンケート結果も踏まえて。
- ・何に力を入れて、まちづくりをするかということを確認に打ち出す。
- ・本別に住みたい人84%。人と人のつながりが大切にされている。
- ・若い年代ほど本別に住みたくない人が多い。郷土愛を育むことが必要。
- ・他の真似でなく本別ならではの計画を。
- ・攻めの姿勢、新しいことにチャレンジしてみることも必要。
- ・厳しい財政状況や町民の皆さんの声を反映した計画に。
- ・積極的な情報発信が必要、住民参加型の取り組みを。
- ・就労人口の増に向けた取り組み（特に若い女性）

各部会で出された意見（審議会との重複除く）

- ・外国人（労働者）との共生社会の形成。
- ・高速道路足寄から釧路のジャンクション工事を先行して要求すべき。
- ・バイオマス発電による家畜糞尿処理の必要。
- ・地域の防災組織体制の確立、防災無線機による防災対応の必要性。
- ・スマート農業の推進。
- ・飲食業の後継者対策。
- ・水源地の植林実施の必要性。
- ・催しの集約化。
- ・コンパクトシティの推進（機能集約化）

地域づくりセミナーでの意見（重複除く） 5年間で実現可能なものから実施していく。

- ・義経の里本別公園一帯、キャンプ場の整備。
- ・豆の町で6次産業化＝ご縁を深める取り組み。
- ・都会に住む人へのアプローチ不足＝ふれあいから要求を。
- ・運動施設が充実している特長を活かす。
- ・空家の利活用。若い世代と高齢世代の住宅マッチングシステム構築。
- ・空き店舗等を活用した世代交流。
- ・買い物、通院などの交通弱者対策。移動販売も必要。
- ・農業大学校・生徒との交流から活かす取り組み。

町民、高校生、中学生アンケート結果から

- ・町民＝どんなまちに？
  - 「安心して医療が受けられる、健康づくりに積極的なまち」を 185 件
  - 「農業や工業、商業などの産業が盛んなまち」を 182 件
  - 「高齢者や障がい者にやさしい福祉のまち」を 153 件
  - 「防災対策を推進し、犯罪の少ない治安のよい安心なまち」を 137 件
  - 「出産や子育てがしやすいまち」を 127 件
- ・町民＝人口減少の中で安心して暮らせるためには何に力を入れるべきか？
  - 「自治会や地域活動の活性化」を 159 件
  - 「路線バス、町営バスや循環バスなどの交通網の整備に力を入れるべき」を 147 件
- ・高校生＝本別町に将来住みたい？
  - 「住みたくない・どちらかと言えば住みたくない」が 44.94%
  - 「わからない」が 39.33%高校生と地域住民、高齢者との交流を望む意見が多く出されている。  
まちの魅力の情報発信が不足しているとの意見が多い。
- ・中学生＝本別町に将来住みたい？
  - 「住みたくない・どちらかと言えば住みたくない」が 37.80%
  - 「わからない」が 29.13%

**大和田委員長**：説明がありましたが、確認すべきことがありましたらお願いします。それでは次に進めます。事務局お願いします。

## 5. 第7次本別町総合計画策定に向けた基本的な考え方

事務局：計画書の作り方について次のとおり考えている。

- ① 表紙 児童の絵（未来本別）小学生低学年に依頼。
- ② 目次
- ③ 町民憲章
- ④ 健康・スポーツの町宣言、非核平和の町宣言、福祉でまちづくり宣言
- ⑤ 総合計画について（計画概要説明）
- ⑥ 現在の情勢 現在・将来の財政 社会の変化（ソサエティ）
- ⑦ 基本構想（将来像、まちづくり計画、人口、財政、土地利用）
- ⑧ 基本計画（計画内容、点検評価のありかた）
- ⑨ 体系図
- ⑩ 施策 ⇒ 別紙（案）議案8ページ、1施策を1ページにまとめる。施策名、将来像、取り組みの主な内容、数値目標、関連する個別計画名、実施する部課局名、現状と課題、SDGs（持続可能な社会の実現に向けて）の関係する項目を表示したいと考える。  
参考として9ページから11ページに帯広市の新しい総合計画書の内容を付けている。本年4月から10年間の計画。10ページには体系図。23の施策で、22番、23番は全体に関わる施策という形になっている。11ページでは1ページに1つの施策を記載している。このような形にしていきたいと考えている。  
施策数については第6次計画で47あるが、現在整理している中では24施策にしていきたい。
- ⑪ 審議会答申
- ⑫ SDGsの説明

大和田委員長：企画に基本的な考え方、ページ数等の概略についての説明でした。表紙を小学生にお願いして書いてもらうというのは可能なのか。

事務局：そうしたい。見開きで1枚の絵を使用したい。ただ、学校の状況が休校となっているので。

委員：厳しいかと。まず、小学生低学年が総合計画についての理解が難しい。そこで題材を決めて絵にするというのは厳しいと思う。

事務局：児童のみなさんに説明して本別の未来がこうなったらいいなと思う絵を描いてもらうことを考えていた。

委員：新型コロナウイルスの関係で主要教科を主体に行っていて、今後は長期休業期間も減らして授業日にあてることも検討している。外部から依頼のある標語、ポスターは取り組む時間がない。再考願いたい。

事務局長：美術部活動として依頼するのはどうでしょう。

委員：絵に長けている生徒がたくさんいる。世界平和ポスターコンクールで世界大会まで2年連続で行っている。中学生になれば理解もできるし、絵の実力もある。

大和田委員長：他にありますか。

委員：これまでの計画の流れが変わるのか。基本構想10年計画で基本計画5年の形は。

事務局：これまでと同じ前期、後期に基本計画を分ける考え。計画書には出て来ないが、これまでの実施計画と同様に施策の下についているカッコ書きの主な事業について年度ごとの事業計画や予算を各担当に作成いただく。

委員：事業に関する説明文は書かないのか。

事務局：主な事業の目標。「何々をします。」との表現のみ。それが3つ、4つ並ぶ感じ。

委員：帯広市の11ページと8ページが同じものとの理解で良いか。

**事務局長**：本別は6次計画では5つの分野に分けている。教育、医療、健康福祉、インフラ、まちづくり参加など。帯広市では4つに分けて分類している。これまでは農業の分野であれば現状と課題について詳しく表記して、めざす姿と施策を20程掲げてきたけれども、そこをシンプルにして。しっかりと5年間の中で中心的に実施していくことを記載していく。帯広市でも大きく計画を変えたことで、「色々と意見をいただいた」と言っている。決め手となったのは、せつかく一生懸命に作った計画が身近に無いと、もったいないということ。日頃から何かあったときに見る計画、めざす姿など思いを共有できるようにすることが大事ということであった。

具体的な実施計画は個別計画に委ねることとなり、思いを反映する。総合計画では趣旨を記載する。

**大和田委員長**：前回計画との比較表、第7次計画はこうしますというのがあると、皆さんからも意見がでると思うが、8ページだけの説明では分かりづらい。

**事務局**：第7次計画の体系図（案）と第6次計画の体系とがどう変わったのかをお示しできるよう準備をしています。審議会が開けていないこともあり、前回の書面会議では意見がまとまらず、「会議を開いて委員のみなさんで決めていきましょう」ということになっている。それらが決まってこないと施策の順番も決まってこない。

**大和田委員長**：順番は後でいい。

**事務局長**：まとめるとこういう感じになるというもので良い。

**大和田委員長**：この会議である程度の内容をつくって行って、審議会にかけるのだから、帯広市バージョンと言われても。今までの計画と比較してどのように変わるというのがないと協議できない。

**事務局長**：計画内容を変更することのメリット、デメリットを掲げて皆さんから意見をいただけるようにしたい。予想されるデメリットはこれまでの計画を見慣れている方は計画が大きくてイメージできないということ。しかし、個別計画の作成年度がそれぞれ違うことから総合計画は趣旨、理念など不変の計画内容を記載しているものとする。

第1次計画からこれまで計画書を作成してきているが、大元となるのは町民憲章で、第1次計画の5つの柱建てとなっている。「あかるく元気なまちをつくりましょう」など抽象的なものだが、その精神は今も共通して変わらない。表現の方法が変わることはあるだろう。キーワードについても審議会の中で議論をしているが、みなさん、そこで悩んでいる。どのようなキャッチフレーズが良いのか。思いは共通してるが、どのように表現すればしっくりするのかというところで。

**委員**：数値目標は地方創生の計画と一致させることになると思うが、数値目標が無いものもあるのではないかな。

**事務局**：無いものについてはアンケートで満足度等を設置することも考えている。

**委員**：数値の設定が難しいものもある。

**事務局**：アンケート結果で何%以上という設定も。

**委員**：では数値目標は施策のいずれにも付いて、漏れることはないと考えているのか。

**事務局**：難しいものもある。

**委員**：SDGsの取り組みは町民の間に浸透しているとは言えない。職員にあっても理解しているのか疑問。

**事務局**：計画策定にあたり、勉強はしているが難しいというか、内容がグローバルなところがあって理解しきれないところも。

**委員**：そのような意識の中で取り組みが浸透するのか。

**事務局**：企業版ふるさと納税のことも意識しての取り組み。また、町民の方々に意識をもってもらって、きっかけのひとつになればとも。

大和田委員長：他にはありませんか。それでは、次に進んで総括的なことは後程、皆さんからいただきたいと思います。続いて現計画の総括について事務局よりお願いします。

## 6. 現計画（平成23年度～令和2年度）の総括について

事務局：既に全施策の平成30年度までの実施内容等を記載いただいております、31年度実績額数値、令和2年度予算数値を再入力いただきたい。また、平成31年度事業実績数値を進捗状況なども確認いただきたい。会議後、各担当に依頼をさせていただく。

大和田委員長：それでは次に各種アンケートと結果についてお願いします。

## 7. 各種アンケート結果のについて

事務局：既にアンケート設問結果は公表済みですが、審議会の中で自由意見の取り扱いをどうするのか。町政に活かすことは勿論、町民に返していかないと、結局は何も聞いてくれない。など行政への不信、あきらめになるとの意見をいただいているところ。そこで、自由意見への各課部局からの回答を広報とホームページに記載。記載内容について各部課局から回答をいただいている。6月1日広報紙掲載（議案12、13ページ）と、ホームページでの公表（別添資料1）をしたいことから記載内容の確認をお願いします。これも各担当宛てにメールにて依頼を行う。

大和田委員長：ホームページにはどのように掲載を考えているのか。

事務局：審議会議事録、アンケート結果が掲載されているので、そこにアップさせていく。

事務局長：アンケートで出されている意見を全て実施するというのではなく、町民の方が誤解されているものもあるので、理解をいただく内容もある。町民のみなさんにお示してしていく上で、表現であったり、内容についてふさわしくないもの等あれば修正していきたい。

大和田委員長：他にみなさんからありませんか。それでは次に策定スケジュールの説明をお願いします。

## 8. 第7次本別町総合計画策定スケジュール

事務局：議案14ページに第4回審議会2月時点でのスケジュールを付けている。3月、5月中旬に審議会を予定していたが新型コロナウイルス感染症の関係で開催できないでいる。2月時点では6月に素案を公表してパブリックコメントを実施したいと考えていた。現状、6月実施は出来ないと判断している。しかし、9月の議会に提案する方向でいきたいと考えていて、それに合わせる形でパブリックコメント、答申のスケジュールを組んでいきたい。理由として、議会において特別委員会が開催された場合に、遅い日程での提案と可決となると、予算作成に影響がでる場合があるため、9月の議会提案、またはその後の臨時会としたい。

事務局長：特別委員会の設置の有無はわかりませんが、9月提案で特別委員会が設置され、12月議会で可決されると仮定した場合、12月の議決いただいたものをもって新年度予算に反映させて、新しい基本構想によるまちづくりの予算建てを予算編成会議においても説明し、予算調整を経て、3月に新年度予算の議決をいただくというスタイルが担当としての考え。スケジュール的に遅れていて仮に12月議会に初めて素案が出せるような状況であった場合、実施計画は3年ローリングで進んでいるので令和3年度の事業は基本的には第6次計画の事業継承する形になり、新しい構想が予算反映されるのは令和4年度からになるとも言えるが、新しい総合計画の開始年度は3年度からとなる。6次計画の継承とするのであれば12月議会に提案して特別委員会にかかっ

たとしても3月に議決をいただく形で良い。本来の理想は最初に事務局から説明のあったとおり。

委員：前はいつ議会提案しているの。

事務局：答申が11月になっているので、12月議会に提案していると思う。

委員：日程的に厳しいのでは。議会への説明は。

事務局：パブリックコメントを出す時に、議会へも素案を一度説明したいと考えている。

町民のみなさんから意見をいただいて、意見反映のための修正を行い、審議会にかけて、確認いただいたものを答申する。それを9月までに。そして議会に提案、特別委員会が設置されれば12月に議決され、新年度予算に新計画の内容が反映される形になる。

委員：6月にできるの。

事務局：難しい。審議会開催のスケジュールを考えると厳しい。

大和田委員長：審議会にかけの前に推進委員会で協議すべきでは。時間的に大丈夫なのか。

事務局長：計画書作成のできることから着手していくしかない。審議会の中での意見反映、協議していく期間が足りなくなっている。

大和田委員長：推進委員会でももう少し協議する必要がある。

委員：前は特別委員会が設置されたのか。

事務局：設置されていない。議員協議会で3回程報告をしている。

委員：前は11月答申で12月議決となっていると思う。

大和田委員長：その前に議員協議会で説明をしているのか。

事務局：している。

委員：特別委員会は設置されると思われる。

事務局長：もし、6月議会に提案がかなわなければ、8月等の臨時議会で提案することも。

委員：8月7日の予定はある。

大和田委員長：この調子でいけば審議会の開催は難しい。

事務局長：その辺のことを調整させてもらう。

大和田委員長：審議会にかけの前にこの推進委員会で計画内容を検討するための資料はいつ頃配布できそうか。

事務局：体系図はできるが、その上の将来像は時間がかかる。

大和田委員長：将来像はどこが作るのか。

事務局：審議会の中で固めていきたい。

委員：たたき台はあるのか。

事務局：5つ程案を出して書面審議会で検討したが、バラバラでまとまりきらなかった。

大和田委員長：審議会ですべてまとめられるのか。

事務局：まとめたい。

大和田委員長：審議会委員のことばで作るのか。

事務局：これまでの審議会の雰囲気では、これまで委員たちで話し合ってきた、まちづくりの方向性について、全体で協議をして将来像を決めていきたい。そして、この推進委員会で微調整をして決めていく。

大和田委員長：事務局案を5つ程出したということであれば、この推進委員会にもその内容を示すべき。

委員：審議会の思いを事務局がまとめて、ことばにして推進委員会で確認すればよい。

委員：推進委員会に案を提示してもらい、施策について各課で「できる」「できない」を

協議する必要もある。

**大和田委員長**：それが推進委員会の役割。

**事務局長**：推進委員会の前に各課に計画内容の確認をさせていただくこともあると思います。

**委員**：キーワードを選択して、それらを並べて行く必要がある。

**事務局長**：キーワードは整理済み。

**委員**：キーワードは町民、委員が出してきた意見なのだから大事。

**大和田委員長**：計画スケジュールなど確認することがありましたら、みなさんからお願いします。

**事務局長**：総合計画の総括シートですとか、皆さん忙しい中提出いただいていますので、それらの資料をいただければ、事務局でまとめていく。今回、シンプルに作成していくということを初めて示したので、原課の施策に照らしたときに、例えば基幹産業の農業で言えば、はたして少ないページだけで関係機関を含めて説明しきれぬのか。福祉もしかり。様々な団体の理解も得られるのか。そのあたりは変則的でも良いのかとも思う。編集のありかたも変えていくことも検討する。基本的な考えとしてこれまでのような厚い計画書ではなく、少し減らしていく、簡素化するという考え方をもちつつ、表現の仕方等工夫をして、初めに説明させていただいた考え方により進めていきたい。次回の推進委員会にあっては新型コロナウイルス感染症対策委員会等の後にまたお集りいただいて、途中経過等の説明をさせていただきながら、ご意見をいただきたい。

**大和田委員長**：次に集まったときに原々案は出来ているか。

**事務局**：作るようにする。

**大和田委員長**：審議会にかけるようなものをつくれるのか。

**事務局**：基本構想は案になる。

**大和田委員長**：その前に原課と一度やり取りをしなくてはならない。

**事務局長**：原課とはヒアリング方式で。

**大和田委員長**：次は冊子になっている必要がある。それでなくては間に合わない。

**委員**：基本的な考え方としてシンプルにつくる。計画書は薄くなる。薄くなるとしたらぶら下がる計画がきちんと出来上がっているということが前提。そこがしっかりしないと説明できない。総合計画はこれからの本別町のありかたの総称を書いていると。その下の個別計画で具体的に「こうしていく」ということが書かれているとならなければならないと思う。

**事務局**：個別計画はこれまでの計画と方向性については大きく変わるものではないと思う。重点的に取り組むもの、新たに加わるものなどもあると思うが、大まかな課題や取り組みについては変わるものではない。課題や力を入れて取り組むものを総合計画で取り上げていく。

**委員**：それでは個別計画に合わせて総合計画をつくることになるのか。

**事務局**：これまでの個別計画を尊重して、総合計画で柱の部分をつうたう。

**委員**：卵が先か鶏が先かではないけれども。

**事務局長**：作り方の手法もあるが、理念としては総合計画が最上位計画である。

**委員**：総合計画の内容を簡素化するという理念をしっかりと持っていないとならない。

**事務局長**：これまでの総合計画の書き方を分析し、計画書の作り方、表現方法も変えてわかりやすく、簡素化を図っていきたい。次回には原々案を示せるようにしていきたい。

**大和田委員長**：日程的には厳しい。銀河福祉タウン計画も来年2月改定で各地区の説明会も開催する。そこで具体的なものも出てくる。

委員：それからパブリックコメントをとって、最終的に調整する。

事務局長：理想像だとかは変わってこないですね。

大和田委員長：それは変わらない。具体的な数値等は変わっていく。その他に皆さんからありませんか。それではその他、事務局からありますか。

事務局：ありません。

大和田委員長：みなさんから。全体を通してありますか。それではこれで会議を終了します。

## 9. その他

## 10. 閉会